



松小だより

3月号

高松市立松島小学校

「盛り上がった校舎お別れコンサート」

2月13日（金）真冬にもかかわらず、好天で寒さを感じない体育館で素晴らしい音楽が響き渡りました。出演者は、本校の卒業生である井上梨江さん（クラリネット）をはじめ、国内外で活躍する6名の香川県出身者で結成した「あんさんぶっかけ・さぬき座」のメンバー。

子どもたちに聴き覚えのある曲を中心に選曲してくださり、とても楽しい演奏会となりました。子どもたちは、プロの演奏家でしたが、本校の卒業生であるということもあり、とても身近に感じながら生演奏にうっとり聴き入っていました。あいだで集会委員会の子がジョイントで演奏したり、メンバーの伴奏で「気球に乗ってどこまでも」を全校性で歌ったりしました。

卒業生である井上さんは、松島小学校の思い出や愛着を曲の間に熱く語ってくださいました。アンコールで歌った校歌は校舎感謝祭のときと同じく体育館中に張りのある歌声が響き渡りました。

演奏者と聴衆者の距離をできるだけ近くし本物の演奏を身近で聴いてほしいと考え、職員で前日、力を合わせてグランドピアノをフロアに降ろしました。ピアノが傷まないよう、職員が怪我しないよう、ハラハラしながらの作業でした。専門家の方に調律もしていただきました。当日は子どもたちの反応がとても良く、演奏者の方々も児童を近くに感じて演奏ができたと喜んでくださいました。ステージへの片付けも職員でしたが、無事にステージに戻ったときは思わず拍手がおこりました。手作りのコンサートの良さが表れ、ピアノを降ろした甲斐があったと思いました。



【思い出を語る井上さん】

後日、メンバーの方から、「コンサート当日の難しい手拍子が最後までずれなくてすごかった。」「聴いてくれるみんなのノリ（反応）が良かったので、翌日の大人向けのコンサートもとても盛り上がった。」などの感想をいただきました。

保護者の皆様、地域の方々とともに素晴らしい感動を共にできたことをとてもうれしく思っています。本当にありがとうございました。

校舎建設感謝の気持ちを工事の方々へ（2月19日）

1年生が寒いなか工事をしてくださっているの方々にお礼を言いたいということで担任と相談し、お礼の手紙を書きました。工事事務所の方に確認をすると、約200名の方が作業していらっしゃるということでしたので、一人一人に手書きのお礼の手紙を丁寧に書きました。はじめは、1年生代表者が事務所代表の方にお渡しするという予定でしたが、当日になって事務所より、できるだけ多くの者が手紙を受け取るようにしたい、という申し出があり、100名を超える方々が並んでいる前で代表児童6名がお礼の言葉を述べて手紙を渡しました。



その後、参加できなかった子どもたちもお礼の歌を歌いたいということで、5時間目に教室から新校舎に向かって学級歌や校歌などを2クラスで歌いました。作業をしている方も手を休め、拍手をしたり、手を振ったりしてくださいました。子どもたちにとって感動的な場面となりました。

校舎移転まであと1ヶ月を切りました。現在の校舎も最後まで大事に使いたいと思っています。22日（日）には校舎お別れ会を計画していますので大勢の方々のご参加をお待ちしています。詳しくは別紙案内状をご覧ください。



【たくさんの方々が集まってくださいました】

